



「そうだ。それから、木や草花も、遊び道具も、だいじにするようみんなによびかけようね。」
そう言いながら、三人は明るくわらった。

10 マラソン大会

健一君^{けんいち}は、四月にこの学校へてん校してきました。村の小さな小学校からてん校してきた健一君には、鉄きん三階だての町の小学校の生活は、とまどうことばかりでした。

休み時間に友だちがドッジボールにきそっても、健一君はいつもひとりで教室にのこり、本を読んだりしていました。そして、前の学校の楽しかったときのことを思い出したりしていました。新しい学校になじもうとしない健一君には、なかなか友だちができませんでした。

てん校して一か月たったころ、マラソン大会が開かれることになりました。運動場うんどうじょうを六しゆう走るので。先生からマラソン大会のことを聞いたとき、健一君はとても心ぱいになってきました。走るのが苦手にがだったからです。とくにマラソンは、すぐに息が苦しくなり、一年生のときからいつも最後さいごでした。

学級がっきゅうたいこうではやささをきそい合うマラソン大会で、もし、最後になつたら、きつとみんなからすぐもんくを言われるにちがいありません。健一君は、大会の日が近づくにつれて元気がなくなってきました。みんなががんばって練習れんしゅうしているときも、運動場のすみっこでつまらなそうにしています。先生に、

「健一君、みんなといっしょに走りましょう。」

と言われても、

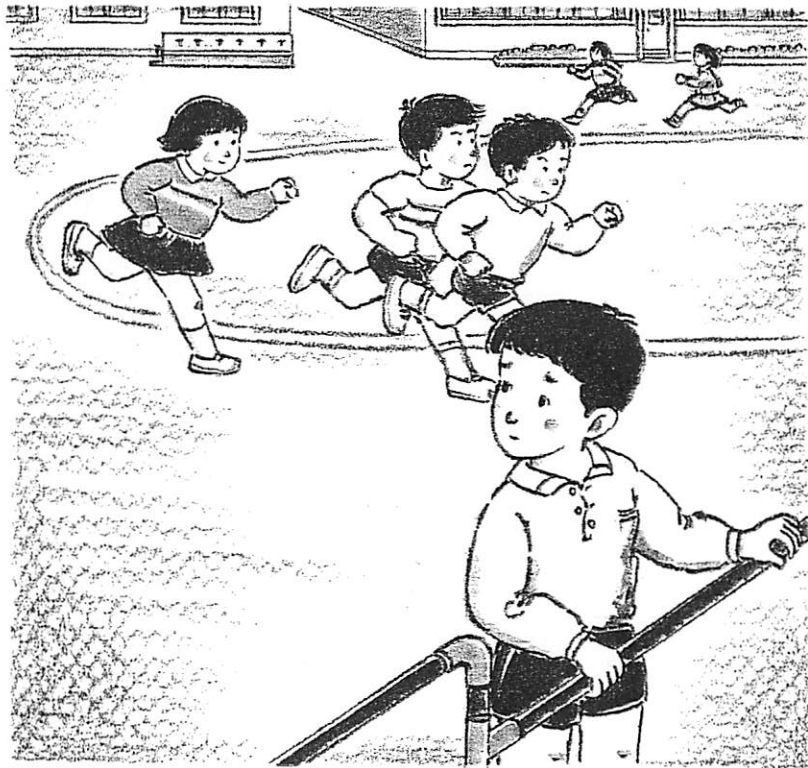
「足をけがしているんです。」

などと言いわけをして、練習をしようとはしません。友だちが、

「健一君、いっしょに走ろう。」

とさそつても、やはり走ろうとしませんでした。

いよいよマラソン大会



の日はやってきました。健一君は、なかなか学校へ行こうとしません。「いやだなあ。行きたくないな。お母さんにうそをついて、ずる休みをしようか。」と考えてぐずぐずしていました。するとげんかんから、

「健一君、おはよう。いつしよに学校へ行こう。」

と友だちの元気な声が聞こえてきました。健一君は、しかたなく出かけました。

いよいよマラソン大会の始まりです。ピストルの合図でみんないつせいに走り始めました。健一君もがんばって走っています。一しゅう目は、むちゅうで走りました。二しゅう目も、なんとかみんなについて走ることができました。

でも、三しゅう目に入ったとき、健一君は、みるみるみんなからはなれていきました。息は苦しくなり、あせがふき出してきます。足は重く、思うように動いてくれません。それでも、健一君は苦しいのをがまんしていつしよけんめい走りました。

四しゅう目にさしかかるころには、息がますます苦しくなり、口の中がからからにかわいて、今にもたおれそうになってきました。「もう、だめだ。走れない。」健一君がそう思ったときです。

「健一君、がんばれ。健一君、がんばれ。」

足をひきずるようにして、みんなの一番後ろを走っていた健一君の耳に、みんなの声が聞こえてきました。今にもたおれそうだった健一君は、歯をくいしばり、いつしよけんめい走り始めまし

た。

いよいよよ、あと一
しゅうでゴールです。
みんなのあたたかいお
うえんにはげまされて、
健一君はどうとう六
しゅう走り通すことが
できました。

みんながはく手でむ
かえてくれました。先
生は、健一君のかたに

手をおいて、

「健一君、よくがんばったわね。」

とにっこりしました。先生やみんなのはく手の中で、健一君は今
まで、前の学校のことばかり考えていたわがままな自分のことが
とてもはずかしくなりました。

次の日、運動場には、元気よく友だちと遊んでいる健一君のす
がたが見られました。



10 マラソン大会

4-(4) 先生や学校の人々を敬愛し、明るく楽しい学級をつくるように努める。(愛校心)

①主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

子どもにとって学級は友人や教師との出会いの場であると同時に、集団活動の仕方や仲間関係の在り方を学ぶ場である。

四年生においては、学級の一員としての自覚を深めるとともに、明るく楽しい学級にするために自分がどのようにかかわっていったらよいかを考え、実行できるようにすることが大切である。また、高学年への前段階として、学校全体へも目を向けさせていきたい。

〈子どもの実態について〉

四年生になると集団意識が芽ばえ、学級や学校への所属感をもつようになる。学級のために主体的に活動する子どもも現れ始めるが、単に学級の一員であるというだけで、積極的に活動しようという心構えをもつに至らない子どもも見られる。

そこで、明るく楽しい学級で生活することの意義を考えさせ、学級集団と自己とのかかわりについての自覚を促す必要がある。

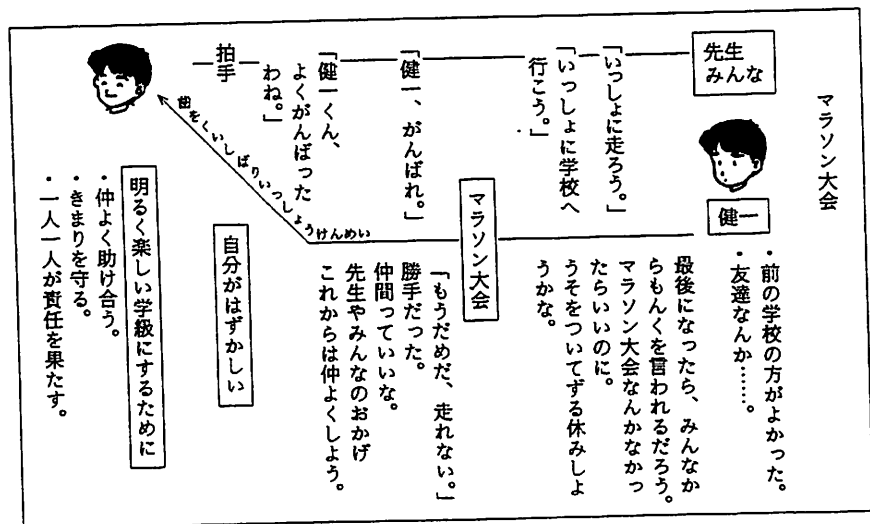
〈資料について〉

転校生の健一は、新しい学校になじめず、級友の中にも入っていきこうとしない。転校して一か月たったころ、学級対抗マラソン大会があるというのでみんなは練習を始めるが、走るのが苦手な健一は、先生や級友のさそいを断ってしまう。マラソン大会の日、みんなから離され苦しくて倒れそうになり、「もう、走れない」とあきらめかけた健一の耳に級友の声援が聞こえてくる。温かい応援に励まされ、走り通すことができた健一は、自分のわがままに気付きはずかしくなるという内容である。

マラソン大会を通して新しい学校に心を開いていく健一の気持ちの変化をとらえさせることにより、ねらいに迫らせたい。

②ねらい

学級の一員としての自覚をもち、進んで明るく楽しい学級にしようとする態度を養う。



□板書

③展開

学 習 活 助	支 援 上 の 留 意 点
<p>(1) 自分たちの学級のすばらしいところについて話し合う。</p> <p>(2) 資料を読んで、健一の考えや行為について話し合う。</p> <p>① 教室に一人にいるとき、健一はどんな気持ちだったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前の学校の方が楽しかったな。 ・友達と遊ぶより一人の方がいいや。 <p>② 健一は、マラソン大会の練習をしている友達をどんな気持ちで見ていたでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・走るのが遅いことをみんなに知られるのはいやだな。 ・最後になったら、みんなに文句を言われるだろうな。 ・マラソン大会なんてなかったらいいのに。 <p>③ みんなの応援を聞きながら、健一はどんな気持ちで走ったのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぼくが最後になったら文句を言うだろうなんて勝手に考えていてばかりだった。 ・こんなぼくに声援を送ってくれるなんて。がんばるよ。 ・前の学校のことばかり考えていて、今の学級のよさに気付いてなかった。みんなやさしい仲間ばかりなのに。 ・これからは、わがままばかり言っていないで、学級のみんと仲よくするよ。 <p>④ 先生に、「がんばったね。」と言われたとき、健一はどんな気持ちだったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最後になってみんなに迷惑をかけてしまったのに、ほめられるなんて…。 ・最後まで走り通すことができたのは、みんなの声援のおかげだ。 ・「足をけがしている」などとうその言い訳なんかするんじゃないかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする価値にかかわる意識がもてるようにする。 ・新しい学級のよさに気付かず、自己中心的な考えしかできていないことに気付くことができるようにする。 ・心配ごとをだれにも打ちあけられない苦しみや不安な気持ちを実感できるようにする。 ・学級の一員としての自覚をもつようになり、学級に対する考えが前向きになっていく健一の心情の変化をとらえられるようにする。 ・積極的に学級の中にとけこみ先生や級友になじもうとしなかった自分に気づき、反省しようとした健一の気持ちを感じるようにすることができるようにする。
<p>(3) 自分たちの学級をより明るく楽しい学級にするための努力について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 明るく楽しい学級とは、どんな学級でしょう。 ・みんなが仲よく助け合う。 ・きまりを守り、責任を果たす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より明るく楽しい学級にするために努力していることを話し合う中で、自分のよさに気付くことができるようにする。 ・実践意欲が高められるように望ましい事例を紹介する。
<p>(4) 教師の話聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 学級や学校のことを考え、実行できている友達を紹介しましょう。 	